

◇紀伊民報・コラム「水鉄砲」(2016. 11/02)

「新宮山彦ぐる一ぶ」(川島功世話人代表)から創立40年の活動を記した冊子が届いた。長い長い奉仕活動の足跡である。

創立時代から代表を努めた玉岡憲明さんが克明に記録した記録によると活動回数は1851回延約2万1900人。膨大な人たちの無償の奉仕で、深い藪に覆われていた大峯奥駈道の南半分を刈り開き、山小屋を新築して修験者たちの便宜を図った。いまこの道を歩き、修業する人たちに水と寝る場所を提供している。

しかし、活動は長い間、世間から知られることはなかった。民間の自発的な活動であり、紀伊山地の奥く深くでひっそりと繰り広げられていたからだ。玉岡さんの「他人さまのために何かをなすことは、しょせん自分自身のためにやっていることにほかなりません」という謙虚な姿勢も関係したのであろう。

注目されるようになったのは2004年7月、朝日新聞編集委員だった僕がその活動を全国版で大きく紹介のがきっかけだった。その記事によってその年「シチズン・オブ・ザ・イヤー賞」に選出され、一気に注目された。

それからさらに10年。ようやく一昨年、奈良県や和歌山県、環境省から表彰され、昨年は玉岡代表が緑綬褒章を受章された。逆に言えば、活動が日の目を見るには30年、40年の歳月が必要であったのである。

活動の一端に触れてきた一人として、40年の記録をたどる冊子は深い感慨がある。(石井)

◇Eメール返信

- 1、「新宮山彦ぐる一ぶ 創立40年の活動の歩み」を10/24 ゆうパックにて拝受いたしました。わざわざお送り頂きありがとうございます。200ページあまりの大作編纂、玉岡前代表の手書き報告書が資料の大半であったようですが、これだけの大量のデータのPC入力作業や構成はさぞかし大変な労力を費やされたであろうことが、紙面をめぐりながら伺われました。川島代表世話人がこつこつとその作業にあたられた様子が目に浮かびます。ご苦勞様でした。そしてお疲れ様でした。山彦も川島さんと沖崎さんとのしっかりした2枚看板で、しばらくはそつなく運営ができるものと思います。今後も、新宮山彦ぐる一ぶのご活躍、ご発展をお祈りいたします。

10/24に頂いた後、全ページをめぐりながら、行仙宿での交流、朝日館での今西先生を偲ぶ会、大竹・傘山での玉岡さん傘寿祝、防府での山上さん傘寿祝い、箱根での35周年祝、ホテル浦島での40周年祝など、山口から参加した行事に目が留まり懐かしく思い起こしました。

それにしても南奥駈「千日刈峰行」に山彦ぐる一ぶの団結力と活動の神髄を改めて感じました。全国の登山団体・修験関連団体とも深く、長い交流を続けておられることもよ〜く分かりました。

1983年行事No.130には、新宮亀の子会(山上皓一郎会長)とありましたが当時、山上さんは山彦とは別の会におられたんだらうかと会員の移動にも関心が湧きました。

別途郵貯口座に祝金2万円振込受領(内、社会貢献者表彰受賞お祝;1万円)。(林 一夫)

- 2、石鎚山の折りは、誠にお世話になり有難うございました。その詳しい山行記録も、有難うございました。更に、限られた部数の「創立40年の活動の歩み」も頂き有り難く思っています。

(田中稔昭)

- 3、このたびは、「新宮山彦ぐる一ぶ創立40年の活動の歩み」をお贈りいただき、有難うございました。本当に凄い歩みですね。頭が下がると同時に、こんな素晴らしい会の皆様のご懇意にさせていただき感謝感激です。

舵取り役の川島会長さんにとってはご苦勞も多いと思いますが、新宮山彦ぐる一ぶが限りなく

発展されますようにお祈りいたします。またお伺いします。（金光康資）

4、いつもメールをありがとうございます。山彦グループの40年間の活動には、多数の方々が参加されて、参加一覧表のみでもかなりの資料とパソコンに転送して一部を拝見致しました。

今朝、新聞を取りにポストに行きましたら何と？山彦グループからの分厚いレターパックが入っておりビックリしました。(多分昨夜の配達だったのでは?) 沢山の会員がいらっしやる中で私の様な休眠状態の会員に大切な資料を送って頂いてありがとうございます。(佐藤優美子)

5、日頃は南奥駈道の維持と保守管理の徹底、本当にご苦勞さまでございます。本日「新宮山彦ぐる一歩創立40年の活動の歩み」が届きました。ありがとうございます。それにしても、膨大な資料の中からよくもまとめられたものと感心しています。そしてパソコンへの入力など気の遠くなるような作業、本当にご苦勞さまでした。大変貴重な資料として大切に蔵書させていただきます。

しばらく目を通すと、人の入れ替わりによってグループの流れがよく分かります。故人となられた方、懐かしい人など記憶が蘇ります。自分がお手伝いさせて頂いた作業なども懐かしく拝見しました。

創始者玉岡憲明相談役の思想が、いつまでも変わることなく続いていくことを願っています。新宮山彦ぐる一歩の益々のご発展を祈念いたします。ありがとうございます。(乾 克己)

6、活動記録、ざっと拝見しました。たいへんな努力でしたでしょう。よく記録として残っていたものです。活動の順番つけだけでも見事なものです。東九州支部の名前を入れていただいただけでもうれしい事です。新年はまた十二支会でお会いできるの楽しみにしております。

(加藤英彦)

7、創立40周年おめでとうございます。冊子内容をお送りくださり感謝に絶えません。

原稿が仕上がらず皆様には申し訳ない状況が続いていますが、あきらめずに作業をしています。自費出版になるかもしれませんが、どうにか山彦の業績を世に伝えたく、がんばっています。原稿段階で目を通していただきたいので、またご連絡いたします。(芹沢清実)

8、この度は、又膨大な「新宮山彦ぐる一歩創立40周年の歩み」を寄贈戴き誠に有難うございました。日常の活動とは違った御苦勞があったものと想い、そのエネルギーに只々驚き御尊敬致します。ありがたく頂戴してUSBに編集し直して身近な岳友に配りたいと思います。心よりお礼申し上げます。(野原龍夫)

9、冊子、昨日届きました。貴重な製本をいただき恐縮です。

機会を作って、そちらにも行かねばとは思っているのですが、なかなか行事あるときと日程が合いません。金魚・メダカがダメな分、農産品に力を入れており、今年は売上げが逆転する見込みです。(杉本俊也)

10、こうして見て見ますと40年の歴史には感動する物が多いですね、それにしても資料編集有難うございました。資料は、パソコン内に保存いたします。(瀧本昭太郎)

11、「新宮山彦ぐる一歩創立40周年の活動の歩み 一覧表」をお送りいただきまして有り難うございます。

限られた部数の中で私が送り先に選ばれたこと、とっても有り難く思いました。新宮山彦ぐる一歩の各山行の思い出は強く残っているのに、時期がいつのことだったか定かで無かったのがこの一覧表で一目瞭然となったこと、とっても嬉しく思いました。懐かしい想いで私が参加した山行の記録に見入っております。本当に有り難うございました。(森脇久雄)

12、この度は、新宮山彦ぐる一歩 創立40周年の歩みを贈ってくださり有難うございました。

製作作業も大変だっただろうとお察ししますが、流石銀行マンの玉岡さんならではの、整理保存のたまものです。

開けて見ますと、色々な思い出が蘇ってくると共に、小生も歳をとったものだと感じ入るこの頃です……

玉岡さんもお元気でお過ごしとの事、漏れ聞いて嬉しく想っております。

川島さん、岳兄様にお逢いしたおり、宜しくお伝えください。では、今後とも山彦ぐる一歩の益々のご活躍を念じると共に、また皆様と、お逢い出来る日を楽しみに致しております。(関本俊雄)

◇ショートメール

- 1, 本日は、山彦の記録誌ありがとうございます。肩・首大分良くなりましたので、又復帰します。(山口泰宏)
- 2, 立派な本届きました、ありがとうございます。懐かしい人の名前があって楽しみに読みます。(高階美根子)
- 3, 山彦40年の歩み、拝受しました。大峯山にとって現代史をかざる大きな浄業です。深仙の小屋も電気までついて「功德尽深」ありがとうございます 合掌。(浅井證善)

◇電 話

- 1, 記録冊子有難うございます。チェンソー1台在りますので、使われるのであれば言って下さい。(玉置藤夫)
- 2, 誌送りいただきありがとうございます。玉岡氏の資料よくまとめられ、大変な労力だったと思います。玉岡さん元気ですかなど。新聞のコラムにも取上げます。(紀伊民報・石井 晃)
- 3, 記念誌着きました、ありがとう。朝からずーと見ています。すごい実績ですね、びっくりしました。あなた方のこの活動は、行者などよりはるかに上に行くものです。又、何かお手伝い出来ることがあれば申出下さい。(株長和;井上吉夫会長)
- 4, 「誌」着きました。ありがとうございます。私の名前やらグループ名も載せて頂き光栄です。作成労力大変だったでしょう。(伊賀敷洋一)
- 5, 立派な労力のつまった「記念誌」ありがとう。奈良図書館など必要あれば申出下さいと連絡。特に要望はなかった。(森沢義信)
- 6, 「誌」貰いました、まとめるのに大変だったろうと労いがありました。(東 真澄)
- 7, ありがとうの電話。(電源開発(株)橋本流通事業所・逆井所長)
- 8, ありがとうの電話。(立志神社)

◇封書・葉書

- 1, メールと略同じ文章、祝金1万円同封。(乾 克己)
- 2, この度は、記念冊子お送り頂き、有難くお礼申し上げます。川島さんのご送信受けましたが、とても目を通すは叶わずでしたので、冊子頂戴出来てありがたいことでした。山彦ぐる一歩にご縁を得ました。当初よりレポートを拝見すること度々で、創立当初の御苦勞のさまざまも玉岡さんの記述であらまし承知しておりました。2000年11月に始まった一連の熊野山行、私共にとっては予想も叶わなかったサポートに接し紀州の方々のあたたかさが恋しくて、延々と熊野通いが続いた次第です。・・・近況お礼まで。今年5月に小辺路(大股～五百瀬)を歩くなどお元気です。同封5千円。(小林和子)
- 3, 今度は、記念誌お送りいただき深謝しております。約20年前、故伊富喜秀明師の追悼のご縁で、玉岡氏をはじめ山彦の方々には大変お世話になりました。その事を思い出しながら拝読させていただきます、宝物として大切に保管させていただきます。(佐々木正俊)
- 4, 過日は、いつもながらすっかりお世話になり、何ともお礼の申し上げようもございません。又、本日は「活動の歩み」限られた冊数の中、お送り頂き畏れ入ります。たいへんな作業と敬服いたします。ぐる一歩より故々の教えをいただきます。人として成熟に向えるよう、みなさんの背を押しつつ一歩一歩です。(茂原 治)
- 5, いつもお世話になっております。先日は、四国不参加の為、返金等大変お世話になりました。本日も山彦ぐる一歩の歩み冊子、御送り頂きありがとうございます。どうぞ又参加させて下さい。(東 敬子)

6, 過日「40年誌」を頂戴し、拝読し会員各位の一步一步の積み重ねを改めて敬意を表するとともに、貴ぐる一ふの益々の発展ご活躍を心より祈念いたし、とりあえず御礼まで(椎木 亮)

7, この度は、「40年誌」をお届け下さりありがとうございます。充実した壮年期であったと改めて振り返ることができました。

俚諺に「井戸を掘った人を守る」のように多くの皆様方が携わって歴史が刻まれます。刻んで進みます。編纂には多大な汗を流されましたでしょう、御苦勞様でした。これからも活躍をお祈り致します(事務局へ)

登山には絶好の季節ですね。青少年期には、紅葉を踏みしめて大峯・大台の道を歩いたものです。この度、「新宮山彦ぐる一ふ創立40年の歩み」をお届けくださりまして、ありがとうございます。今、この冊子を読むと、私の壮年期は何んと充実したものであったかと。そして多くの仲間と交流できたこと嬉しく思いましたよ。

世の中は、百名山・名峰を求む方々も見受けられますが、人生の宝とは山を通しての人脈ですね。編纂されましたご苦勞には頭が下がります。ありがとうございます(川島へ)。(松本 良)

8, この度、また素晴らしい「40年誌」をご恵与くださり誠にありがたく深く感謝申し上げます。川島代表さま始め皆さんに何卒よろしくお伝え下さい。益々のご活躍を祈念申し上げます。先ずは御礼まで。「秋来ぬ なつかしき 行仙の宿」(吉開賢淳)

9, 新宮山彦ぐる一ふの「四十周年記念誌」を送って下さり、誠にありがとうございました。貴ぐる一ふとの親交を思い出しつつ、懐かしく読ませて頂きました。

これから更に十年、二十年と活動が展開されていくと存じます。私もまたお手伝いさせていただきます。先ずは御礼まで。(速渡裕明)

10, お礼遅くなりました。貴重な資料をありがとうございました。亡き父の参加状況も判りました。また、山彦のHPで新しいメンバーも加わり力強い活動ぶりを見せてもらいました。

新宮図書館にも活動記録が郷土史として保存され、誠に喜ばしいことです。

私も貫道師との縁で受けている主題を適時、微力乍ら行じつつ、各地を祈祷巡拝しております。扱玉岡さんの健康も回復されつつあるとの事で、安堵しておりますが、まずは山彦の皆様のお健勝を祈念させて頂きまして、お礼とさせていただきます。今後共ご精進下さい。(小田知道)

11, 先日は、記念誌を送って頂きありがとうございます御座いました。本年度は、1月より海外訓練、全国部隊長の前での展示射撃、8月の火力演習では800mの目標射撃とやりがいのある仕事をさせて頂きました。12月より国際大会の選手を目指して合宿に参加して参りました。また、皆様とお会いできる事を願って。(伊藤 純)

12, このたびは「新宮山彦ぐる一ふ創立40年の活動の歩み」をご送付いただき、ありがとうございます。平素から「山彦ぐる一ふ」の皆様には、何かとお世話になっておりますが、40年の歩みを拝見して、そのたゆまぬ活動の尊さに改めて敬意を表する次第です。また、その活動を漏らさずに記録されていることも、本当に素晴らしいことだと感じております。

大峯南奥駈道の再興、そしてその維持管理という尊い活動を通じ、貴会がますます発展されますようお祈りし、お礼と致します。誠にありがとうございました。(上平一郎)

13, 「新宮山彦ぐる一ふ創立40年の活動の歩み」お送り頂きありがとうございます。活動の歩みを拝見させて頂き、改めまして皆様方のご苦勞により私どもが何の心配もなく、ひたすら奥駈道を登拝し勤行出来る事に感謝し、なお一層心をこめて奥駈道を歩かせていただきたく考えますし、「新宮山彦ぐる一ふ創立40年の活動の歩み」を纏められた事務局の方のご苦勞はいかばかりだったかとお推察申し上げます。一万円同封。(今野孝祐)

◇振替口座

1, 創立40年の活動の歩み誌の発行おめでとうございます。志; 1万円。(檜山嘉夫)

以上